

平成 27 年度実施分 協働事業・市民活動助成事業 事業紹介



松戸市

はじめに

松戸市では、「豊かで活力ある地域社会の実現」をめざして、市民及び市民活動団体、民間事業者と市による「協働のまちづくり」を推進しております。

その支援として、市民活動団体・民間事業者の活力を活かし、市と事業の企画から実施までを協力して行う「協働事業提案制度」と、新たな市民活動の立ち上げや既存の活動を発展させる「市民活動助成制度」があります。

【協働事業提案制度】

協働事業は、市民活動団体や民間事業者と行政のそれぞれが強みの部分を活かし、身近にある地域課題の解決に向けて、協力して実施する事業です。

協働事業提案制度は、市民活動団体や民間事業者が、協働事業を提案し、市と協力して、その事業を企画し、実施する制度です。

平成 27 年度は 2 事業実施しました。

【市民活動助成制度】

新たな市民活動を立ち上げるため、又は、既存の活動をさらに発展させるための事業に要する一時的な資金を助成することで、市民活動の活性化を図り、豊かで活力ある地域社会の実現に貢献することを目的とします。

平成 27 年度実施分より、スタート助成（助成上限額 10 万円）及びステップアップ助成（助成上限額 30 万円）の 2 つの部門を設けております。

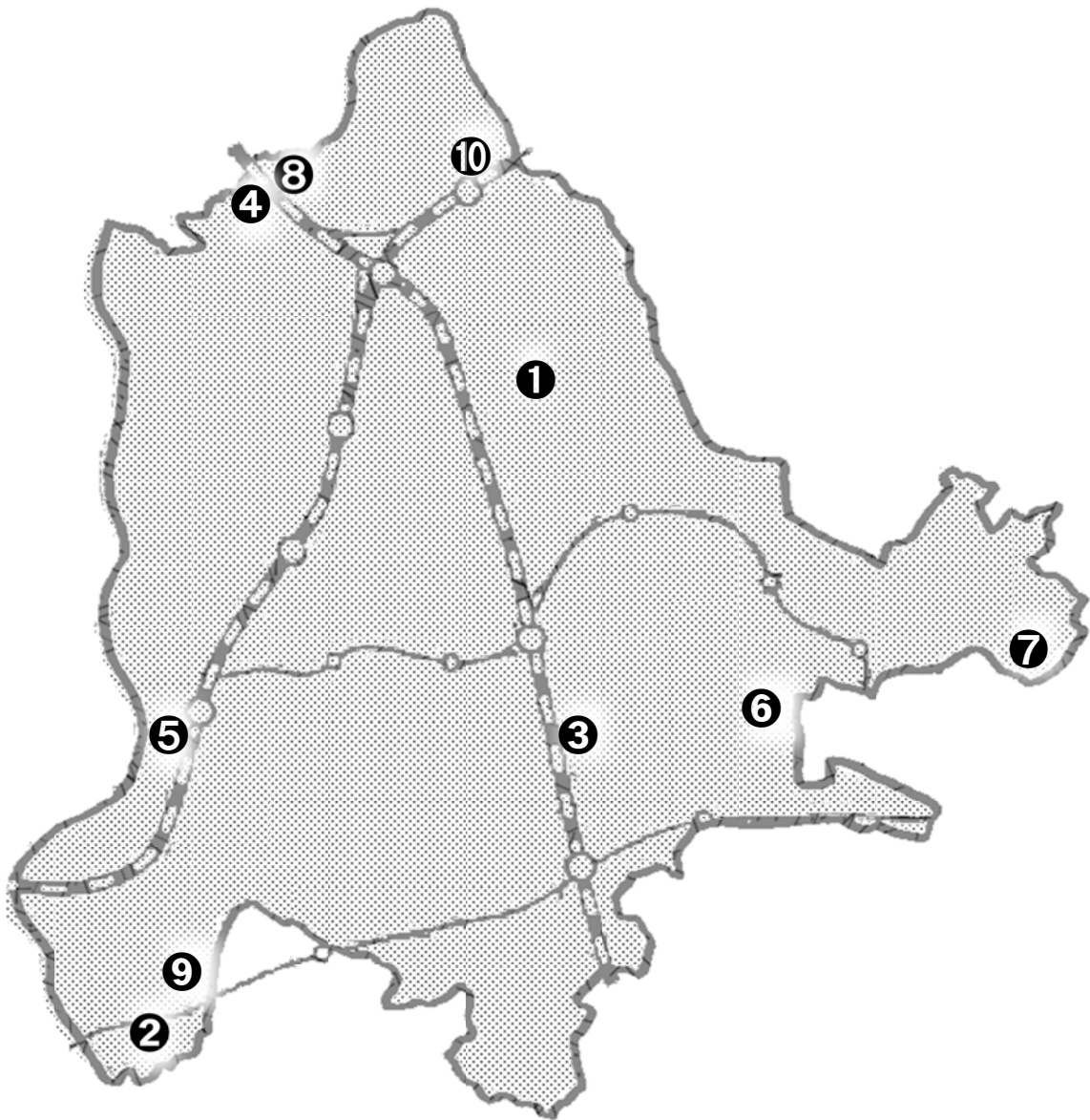
平成 27 年度は 8 事業（スタート助成 7 事業、ステップアップ助成 1 事業）実施しました。

目 次

平成27年度協働事業・市民活動助成事業 事業紹介

【協働事業】	ページ
○ 地域連携自主防災事業	栗ヶ沢中学校地域防災委員会 危機管理課 1
○ 協働による「協働のまちづくり講演会」事業	特定非営利活動法人まつどNPO協議会 市民自治課 2
【市民活動助成事業(スタート助成)】	ページ
○ 河原塚史編纂事業	河原塚史編纂委員会 3
○ 「カレーを食べる会」事業	五番街ふれあいセンター 4
○ 伝えたい大震災の記憶・学びたい大震災の体験の講演会・ワークショップ事業 part2	東日本大震災復興支援松戸・東北交流プロジェクト 5
○ 認知症の啓発活動と患者・家族の支援体制づくり事業	松飛台自治会連合会 6
○ けん玉で遊ぼう事業Ⅱ	昔のあそびと遊ぼう会 7
○ 外国人の子ども支援を考える事業	認定NPO法人外国人の子どものための勉強会 8
○ 知っておくと安心！食品の安全な取り扱い手帳を市民に手渡ししたい～講演会の実施等で～事業	食の安全安心を考える市民の会 9
【市民活動助成事業(ステップアップ助成)】	ページ
○ 団塊シニア世代の地域デビュー事業	認定NPO法人 たすけあいの会ふれあいネットまつど 10
● 協働のまちづくり基金について	11
● 協働のまちづくり基金 寄附者一覧(平成27年度)	12

実施団体の活動拠点MAP



		団体名	活動拠点	ページ
協働 事業	①	栗ヶ沢中学校地域防災委員会	小金原	1
	②	特定非営利活動法人まつど NPO 協議会	栗山	2
市民 活動 助成 事業	③	河原塚史編纂委員会	河原塚	3
	④	五番街ふれあいセンター	新松戸	4
	⑤	東日本大震災復興支援松戸・東北交流プロジェクト	松戸	5
	⑥	松飛台自治会連合会	松飛台	6
	⑦	昔のあそびと遊ぼう会	六実	7
	⑧	認定 NPO 法人外国人の子どものための勉強会	新松戸	8
	⑨	食の安全安心を考える市民の会	下矢切	9
	⑩	認定 NPO 法人たすけあいの会ふれあいネットまつど	東平賀	10

協働事業

地域連携自主防災事業	協働事業者	栗ヶ沢中学校地域防災委員会
	事業担当課	危機管理課

【事業内容】

平成 27 年度事業の取り組み

栗ヶ沢中学校地域防災委員会(以下、栗防と略)は、地震による大災害時に地域として対応するため平成 24 年に発足した。目的は災害時における地域の収容避難所の円滑な開設運営、要配慮者に対する地域全体での支援を目指している。平成 27 年度事業は、栗ヶ沢中学校における収容避難所開設運営訓練、栗ヶ沢小学校および貝の花小学校における災害図上訓練、講演会実施(二回)、要配慮者支援会議の実施(三回)、栗防通信の発行(二回)である。

収容避難所開設運営訓練は、発足直後からもっとも注力しているもので、今回で三回目となった。三ヶ所の学校収容避難所の開設運営のための小委員会もすべて発足し、そのメンバーが災害時の開設運営の要となる。災害時にどなたが開設運営に携われるかわからないため、多数の方々が開設運営各班のリーダーの役割が担えるよう、過去の訓練で開設運営各班のリーダーを務めた方はアドバイザー役に回るなど、できるだけ未経験者にリーダー的役割を担っていただいている。今回の訓練参加者は 279 名であった。

要配慮者支援会議は平成 26 年より開催していたものを、危機管理課の主導のもと、正式な組織として発足した。地域としてどのように要配慮者を支援していくのか、その骨組みを関係者の合意のもと作成した。

事業費	588,189円
自己資金	116,868円 (労力換算額:738,000円)
負担金	471,321円



平成 27 年度事業の成果

- 1 栗ヶ沢中学校収容避難所開設運営訓練(11/14、参加者 279 名)
- 2 栗ヶ沢小学校および貝の花小学校の図を用いた災害図上訓練(12/20、参加者 40 名)
- 3 講演会の実施(12/12 および 2/13 の二回、講演者は蓮本浩介氏および名取直美氏、参加者は各々およそ 50 名と 80 名)
- 4 要配慮者支援会議の実施(9/25、12/25、および 2/26 の三回、各会出席者はおおよそ 40 名)
栗防通信の発行(第 4 号および第 5 号、各 6500 部を栗中地域に町会・自治会を通じて配布)

平成 28 年度事業の目標

例年通りの事業(避難所開設運営訓練、災害図上訓練、講演会開催、および栗防通信の発行)に加え、要配慮者支援会議にて具体案の作成、および松戸市内自主防災組織との交流を計画している。

【協働事業者紹介】

栗ヶ沢中学校地域防災委員会

構成団体：小金原五丁目町会、小金原六丁目町会、小金原 6-7 住宅組合、小金原団地分譲住宅自治会、小金原団地自治会(6-13)、小金原七丁目東町会、小金原七丁目西町会、小金原八丁目町会、小金原九丁目町会、小松園自治会、栗ヶ沢連合町会、他

《問合せ先》

栗ヶ沢中学校地域防災委員会

電話：047-330-4704

FAX：047-330-4704

Eメール：kuri.dpc.root@gmail.com

ホームページ：<https://sites.google.com/site/kuridpc/>

担当者 岩崎義仁

協働事業

協働による 「協働のまちづくり講演会」事業	協働事業者	特定非営利活動法人 まつどNPO協議会
	事業担当課	市民自治課

【事業内容】

平成 27 年度事業の取り組み

【目的概要】

協働の知識・事例共有について、市民活動団体関係者、一般市民、市職員が一堂に会することにより、協働に関する知識を学び、その事例等を共有する場として講演会を開催した。

【事業の柱】

1 講演会開催（企画・運営）

(1) 基調講演＝五井 利明氏（NPO 法人 CR ファクトリー）

(2) パネルディスカッション

・大島 由起雄氏（NPO 法人きずなメール・プロジェクト）

・所 正明氏（栗ヶ沢中学校地域防災委員会）

(3) ポスターセッション

・認定NPO法人外国人の子どものための勉強会、NPO法人子どもとまつど、NPO法人人材パワーアップセンター、NPO法人たすけあいの会ふれあいネットまつど、エコトンボの会、ファミリーサポート・勇気づけ、東日本大震災復興支援松戸・東北交流プロジェクト、NPO法人まつどNPO協議会

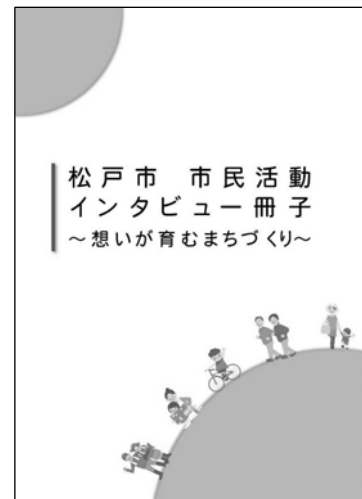
(4) 円卓をつかった、市民・行政職員混在の対話プログラム

（テーブルトーク）



- #### 2 協働・市民活動情報制作市民活動団体を訪問してインタビューを7件実施、事業の“ストーリー”を紹介した。

事業費	278,025円
自己資金	30,005円
（労力換算額：254,000円）	
負担金	248,020円



平成 27 年度事業の成果

来場職員アンケートから協働に関する知識は依然として必要な一方、市内の事例へのニーズよりも、「団体情報を得る」「市民活動を体験する」ことへのニーズがあることがわかった。「市民と市職員の信頼関係構築」については、市民・職員アンケート双方で満足度が高く、達成した。

平成 28 年度事業の目標

行政指定部門の増加を図り、採択数向上を目指す。方策として、10年～15年間の松戸市の人口動態シミュレーションに基づき、松戸市職員としてのロールモデルを提示する。

【協働事業者紹介】

NPO 法人まつど NPO 協議会は、市民活動団体と市民 40 近くが参加する事業体として、松戸市内の NPO・市民活動団体・個人が「相互に情報交換、連携する場を提供すること」「市民の参加を促すこと」「多様な協働を促進すること」により、豊かで活力ある地域づくりに貢献します。

《問合せ先》

特定非営利活動法人まつどNPO協議会

松戸市栗山542-2

電話：090-9826-3729

メール：contact@matsudo-npo.org

ホームページ：http://matsudo-npo.org/

担当：山崎

市民活動助成事業

河原塚史編纂事業	団体名	河原塚史編纂委員会
-----------------	-----	------------------

【事業内容】

<p>平成 27 年度事業の取り組み</p> <p>河原塚の「河原塚古墳」は有名だが、歴史に関する資料はほとんど残されていない。古くから存在する熊野神社や本勝寺にも、歴史を伝える古文書や過去帳は残っていない。</p> <p>私たちが知っている過去の行事や昔の話、風習をまとめ、後世に残そうとした事業である。</p> <p>平成 27 年度は以下の目標に向けて取り組んだ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 月 1 回の A3 版の回覧板による町会員への活動報告。(12 回) 2 経過報告を兼ねた「講演会」の開催。 3 事業活動から明らかになった熊野神社「菅原道真公」遷座式の支援。 	<table border="1"> <tr> <td>事業費</td> <td>126,607円</td> </tr> <tr> <td>自己資金</td> <td>49,207円</td> </tr> <tr> <td>助成金</td> <td>77,400円</td> </tr> </table>	事業費	126,607円	自己資金	49,207円	助成金	77,400円
事業費	126,607円						
自己資金	49,207円						
助成金	77,400円						
<p>平成 27 年度事業の成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 月 1 回の回覧板による町会員への活動報告は予定通り実施。 2 6 月 27 日本勝寺にて編纂委員による「神社で南無妙法蓮華経？」の講演会実施。約 50 名参加。 3 7 月 25 日熊野神社にて学問の神様・菅原道真公を祭神とする天神社を復興する遷座祭が行われ、編纂委員会も協力。新聞やテレビで大きく報道された。 4 河原塚の江戸時代領主が判明。末裔との交信が実現し、家族と歴史編纂委員会のメンバーとの意見交換の会議を実現。 							
<p>平成 28 年度事業の目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 4 年間にわたる事業活動の総決算の年度であるため、町会員への回覧板による活動報告と並行して、平成 28 年 12 月の冊子発行に向け総力を結集する。 2 町会員への無料配布を決定したため、助成金を含めた冊子発行の資金確保に万全を期す。 3 広く「河原塚史編纂事業」を知っていただくためにも、町会員以外への冊子配布にも配慮し部数を確保する。 							
<p>【事業者紹介】</p> <p>《問合せ先》</p> <p>河原塚史編纂委員会</p> <p>松戸市河原塚 5 0 5 - 1</p> <p>電話：090-3312-8886</p> <p>Eメール：h-yano@dp.u-netsurf.ne.jp</p> <p>代表幹事 矢野 浩</p>							

市民活動助成事業

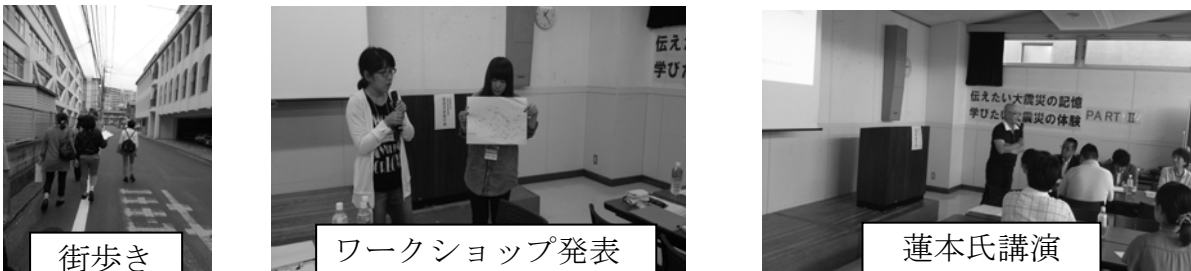
「カレーを食べる会」事業	団体名	五番街ふれあいセンター
---------------------	-----	--------------------

【事業内容】

<p>平成 27 年度事業の取り組み</p> <p>計画通り平成 27 年 4 月 23 日（木）の第 8 回から平成 28 年 3 月 24 日（木）の第 19 回まで 12 回の「カレーを食べる会」を開催した。</p> <p>1 参加者は、年間 480 名（40 名/回）の計画に対して、延 696 名（58 名/回）を達成した。</p> <p>2 本来の目的「見守り活動」として次の手順を履行した。</p> <p>（1）月初めに、会員全員へ出欠表付き案内文を配布。</p> <p>（2）締切日までに回答のない方は、電話・訪問で確認。</p> <p>（3）直前（2 日前）に出席者への確認案内文を配布。</p> <p>（4）当日来られない参加者には、再度電話・訪問で確認。</p> <p>3 最近では会を重ねるごとに、食後の懇談が活発になった。各テーブルにスタッフが付き、生活の近況を話し合っで見守りに役立っている。</p> <p>また、席が指定席（近隣の方を考慮）の為か、会員同士が知り合い、仲良しになり、会の帰りにお茶会を行っているグループもできた。（会員同士の見守り）</p> <p>他のサロン（喫茶花水木・憩いの場）では、お会いしない男性の参加も目立つようになった。</p> <p>4 会員の資格である、「単身で 75 歳以上」になったと自己申告して参加される方々も出てきた。住民の中で好評を得ている。</p>	<table border="1"> <tr> <td>事業費</td> <td>394,668円</td> </tr> <tr> <td>自己資金</td> <td>294,668円</td> </tr> <tr> <td>助成金</td> <td>100,000円</td> </tr> </table>	事業費	394,668円	自己資金	294,668円	助成金	100,000円
事業費	394,668円						
自己資金	294,668円						
助成金	100,000円						
<p>平成 27 年度事業の成果</p> <p>1 75 歳以上の単身者 64 名のうち 52 名（81%）を会員に、75 歳以上夫婦の 50 世帯のうち 21 世帯（42%）を拡大会員に登録（組織）して出欠確認作業で見守り活動をおこなっている。</p> <p>2 材料（野菜・米）は、五番街の菜園クラブや住民からの提供があったり、食事前のイベントでは、五番街のクラブ・サークルや住民による、歌、踊り、演奏等の参加があり会場を盛り上げている。理事会をはじめ五番街全体の支援も受けている。</p>							
<p>平成 28 年度事業の目標</p> <p>1 近隣地域へ「見守り活動」を紹介して地域での活動に拡大したい。</p> <p>2 今年度の住民台帳更新を利用して、会員（75 歳以上の単身者）の再調査をして拡大したい。</p> <p>3 通常の見守り活動の情報を、災害時支援につなげるよう工夫したい。</p>							
<p>【事業者紹介】</p> <p>「五番街ふれあいセンター」（67 名のボランティアで構成）は、当マンション住民同士の見守り活動を目的として平成 23 年 4 月に発足した。「ゴミだしサポート」「声かけ」「お話し相手」の活動に加えて平成 26 年 9 月から「カレーを食べる会」を立ち上げた。</p> <p>また、平成 27 年 3 月「男の介護教室」9 月「映画を観る会」も立ち上げて活動している。</p> <p>《問合せ先》</p> <p>団体名：五番街ふれあいセンター</p> <p>住所：〒270-0034 松戸市新松戸 7 丁目 2 2 1 番地 サンライトパストラル五番街 D 棟 3 2 2 号</p> <p>電話：事務所 047-344-4410（FAX：同番号）</p> <p>Eメール：ikurou22@krf.biglobe.ne.jp</p> <p>担当者：土橋 育郎（自宅：047-346-5739）</p>							

<p>伝えたい大震災の記憶・学びたい 大震災の体験の講演会・ ワークショップ事業 part2</p>	<p>団体名</p>	<p>東日本大震災復興支援 松戸・東北交流プロジェクト</p>
--	------------	-------------------------------------

【事業内容】

<p>平成 27 年度事業の取り組み</p> <p>1 平成 26 年度市民活動助成事業アンケート結果から、今年度の事業に着手した。 防災マップについて知りたい。災害について繰り返し学びたい。</p> <p>2 前年度は、避難者から学ぶ事業だが 2 年目は、避難者も一緒に参加した。</p> <p>3 大震災を忘れない。</p> <p>以上の課題から、下記の事業を実施した。</p> <p>1 ワークショップ 防災マップ街歩きとマップ作り 千葉商科大学人間社会学部准教 勅使河原隆行氏とゼミ生</p> <p>2 講演 阪神淡路大震災から 20 年を経て～防災・減災について思うこと～ 減災・福祉パートナーズ 蓮本浩介氏</p> <p>3 講演 わたし達の地域の防災活動について 栗ヶ沢中学校地域防災委員会 所 正明氏</p>	<table border="1"> <tr> <td>事業費</td> <td>177,915円</td> </tr> <tr> <td>自己資金</td> <td>77,915円</td> </tr> <tr> <td>助成金</td> <td>100,000円</td> </tr> </table>	事業費	177,915円	自己資金	77,915円	助成金	100,000円
事業費	177,915円						
自己資金	77,915円						
助成金	100,000円						
<p>1 街歩き</p> <p>2 ワークショップ発表</p> <p>3 蓮本氏講演</p>							

平成 27 年度事業の成果

- チラシ 2500 枚配布
- 講演会 60 名参加(内大学生 8 名・20 代一般参加者 3 名)
- 避難者は、松戸市民の中に溶け込んで参加した。
- 街歩きは、気づきの宝庫となった。松戸の防災に市民として役立つ事例となった。今後プロにもアドバイスをもらい進化したマップ作りにチャレンジしたい。若者の参加が、うれしかった。
- 行政・社協・町会・支援団体・復興支援員の参加者もあり、当団体として防災講座の事業を続けて行く上で宝となる。
- 講演会後の意見交換の中で、松戸市の避難所では地域住民全員が避難できる容量でないことが判明。結果、近隣で助け合うことの重要性を学んだ。
- 事業を実施したことで、参加者・市民団体・行政をつなげる役目を果たせた。
- 防災講座(24 名参加)は、行政と市民がテーブルを囲んで生の声で意見交換ができて好評であった。



所氏講演

【事業者紹介】

東日本大震災避難者の想いを大切に長期的な支援活動を念頭に置いて活動している。
松戸・東北交流サロン「黄色いハンカチ」を運営している。
「黄色いハンカチ」は、「避難者同士の交流の場」「避難者と市民の交流の場」「相談の場」「自立支援の場」など多彩の機能を持っている。避難者自身でも団体を立ち上げ活動をしている。
《問合せ先》東日本大震災復興支援松戸・東北交流プロジェクト
〒271-0092 松戸市松戸1834-5 小川ビル2階
電話：047-710-5519
FAX：047-710-5546
Eメール：yellowhandkerchief1834@gmail.com
ホームページ：yellowhandkerchief.web.fc2.com/
<http://blogs.yahoo.co.jp/yellowyellow1834>
代表 古宮保子

市民活動助成事業

認知症の啓発活動と 患者・家族の支援体制づくり事業	団体名	松飛台自治会連合会
--------------------------------------	-----	------------------

【事業内容】

<p>平成 27 年度事業の取り組み</p> <p>当地区も超高齢化社会を迎えているにも係らず、認知症を含めた高齢者福祉に対する住民の関心や知識が低いことに危機感を覚える。</p> <p>まずは焦点を認知症に当てて、その患者・家族が住みなれた街で、周囲の人達に理解されながら、気持ちよく安心して生活できる街づくりをしたい。</p> <p>そのために、認知症の啓発活動をしながら、住民と関係機関の協力を得て、患者・家族を支援する組織・ネットワークをつくり機能させていきたい。</p> <p>自治会長 12 名、町会の福祉部員 15 名、民生委員 7 名、高齢者相談員 2 名が中心になり、5 回の講演会を開催し、都度、具体的な問題を出し合って議論を重ねた。また銀行、スーパー、コンビニ、商店会、郵便局、新聞店にも働きかけてネットワーク作りを試みた。</p> <p><講演会のテーマ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 認知症サポーター養成講座、高齢者支援課、保健師 守田加寿子氏、参加者 82 名 2 認知症になっても安心して暮らせる街づくり、千葉県認知症家族の会代表 広岡成子氏、参加者 65 名 3 認知症の診断と治療、千葉大学付属病院 認知症疾患医療センター 医師 平野成樹氏 参加者 51 名 4 認知症患者の介護、包括支援センター 介護専門員 左合智樹氏、参加者 47 名 5 認知症講習会総括、認知症患者と家族に対するそれぞれの役割、自治会、病院、介護施設、民生委員、住民、島村トータルクリニック 院長 島村善行氏、参加者 43 名 	<table border="1"> <tr> <td>事業費</td> <td style="text-align: right;">114,703円</td> </tr> <tr> <td>自己資金</td> <td style="text-align: right;">14,703円</td> </tr> <tr> <td>助成金</td> <td style="text-align: right;">100,000円</td> </tr> </table>	事業費	114,703円	自己資金	14,703円	助成金	100,000円
事業費	114,703円						
自己資金	14,703円						
助成金	100,000円						
<p>平成 27 年度事業の成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講演会に参加した人達の中には、一部ではあるが患者・家族に優しく声をかけ見守りをしてくれる人も出てきた。 2 専門的な認知症ケア会議は無理だが、第 1 回高齢者ケア会議の開催が決まった。その中で認知症を取り上げて行きます。 3 高齢者相談員が 2 名から 10 名に増えた。 4 「認知症は恥ずかしくない」という風土はまだできていない。しかし、今まで引っ込んでいた患者さんも家族に付き添われて散歩や買い物などに外出する姿を見受けるようになってきた。 5 患者・家族の支援体制とネットワークは各方面に働きかけたが出来ずじまいであった。引き続き次年度の課題として取り組む。 6 部分的な課題は達成されたが、大きな課題は次年度持ち越しとなった。次年度の高齢者総合対策の一環として 3~5 年かけて取り組んでいく。 							
<p>【事業者紹介】</p> <p>松飛台自治会連合会 松飛台地区 12 町会の連合体 代表 倉田 斉</p>							

市民活動助成事業

けん玉で遊ぼう事業Ⅱ	団体名	昔のあそびと遊ぼう会
-------------------	-----	-------------------

【事業内容】

平成 27 年度事業の取り組み

「けん玉」を通して、地域の方々とふれあい、子供達と大人が一緒に遊べ、コミュニケーションを取れる場を創る。また子ども達には、上達することで達成感と自信を味わってもらい、父母には、親子間のコミュニケーション作りの推進、高齢者には健康を届けたいと思っている。

事業費	115,452円
自己資金	18,452円
助成金	97,000円

＜事業内容＞

- 1 けん玉教室を開催し、子供達の達成感、大人とのコミュニケーションを図れる場を提供する。
[けん玉教室の開催要領]
(1) けん玉の上達がわかるようにけん玉の級、段位の認定を行える。
(2) 技を教える時間と、認定の時間を設ける。
(3) 大人と子供と一緒にできる教室にする。
(4) 原則1ヶ月に1回開催する。
- 2 年に一度地域の子ども達を集め、けん玉の面白さを紹介するイベントを開催する。
(1) 実施場所 六実市民センター
(2) 実施時期 ①「六実けん玉教室」：毎月第3土曜日 14時～16時30分
②「けん玉で遊ぼう」事業開催：10月25日（日）10時～15時



平成 27 年度事業の成果

- 1 「六実けん玉教室」参加者は、平成27年4月～平成28年3月迄で406名（月平均43.9名（計画30名））の参加があり大盛況だった。参加者のうち、けん玉有段者（5段：3名、4段：8名、3段2名、2段：6名、初段：8名）を多数合格することができ、子ども達に達成感を感じてもらえたと思う。また会員のレベル向上ができ、段位未達の参加者に指導ができるようになり、継続の見通しができた（2段1名、初段1名）。
- 2 けん玉を通して、益々多く市内外の方々と世代間交流ができ、地域の活性化が図れ、その大人と子どもの割合は40：60で、大人と子供と子供の相互コミュニケーション作りに役立てたものと思う。
- 3 教室参加者も毎年増加し、多くの方々に楽しんで頂けたことと思う。市内及び市外から多くの参加頂き、地域の活性化に寄与出来たものと思う。（平成26年度384名→平成27年度527名）

【事業者紹介】

＜平成28年度 開催事業＞

毎月第1土曜日 13時30分～15時30分 「昔のあそび」（参加無料）
毎月第4土曜日 14時～16時30分 「けん玉教室」（参加無料）
（実施場所 六実市民センター）

《問合せ先》昔のあそびと遊ぼう会

〒270-2204 松戸市六実2-52-10
電話・FAX 047-387-1522
会長 白石 彌登美

<p>外国人の子ども支援を考える事業</p>	<p>団体名</p>	<p>認定 NPO 法人 外国人の子どものための勉強会</p>
-------------------------------	------------	-------------------------------------

【事業内容】

平成 27 年度事業の取り組み

松戸市内の小・中学校には外国から来た子どもが 300 人以上いる。また日本生まれ日本育ちでも親が外国人で家では異文化生活という子どもたちもいる。こうした子どもたちは学校生活になじめない、授業についていけないなどの困難を抱えている。

この現状を知り、支援について考えるために 2 回の講座を開催した。

- 1 第 1 回「本音で語ろう 外国人の子ども事情」（参加者 73 名）
 - (1) 日時 平成 27 年 6 月 14 日（日） 13 時 30 分～16 時
 - (2) 場所 稔台市民センター
 - (3) 内容 ①パネルディスカッション（外国人の子どもの保護者、学童指導員、元小学校教師）
②ミニコンサート
- 2 第 2 回「本音で語ろう 外国人の子どもの進路」（参加者 56 名）
 - (1) 日時 平成 27 年 11 月 15 日（日） 14 時～16 時
 - (2) 場所 女性センターゆうまつど
 - (3) 内容 ①基調講演
②パネルディスカッション
（フィリピン、中国、韓国、ブラジル出身の青年たち）

事業費	104,835円
自己資金	13,283円
助成金	91,552円



平成 27 年度事業の成果

第 1 回では、外国人の子どもの保護者から地域になじむ苦勞を聞き、受け入れた学校などからは相互理解の努力を伺った。後半にはペルーの民族音楽を鑑賞し交流した。

第 2 回では、千葉県における外国人の高校入試の現状の講演を聞き、その後外国出身の大学生、社会人たち進学や進路選択において直面した困難、いかに克服したかを伺った。

講座のアンケートでは、約 7 割が満足と回答し、外国人の子どもの支援を考える機会となった。

平成 28 年度事業の目標

高校進学は人生の一ステップである。外国人枠で受験可能な高校もあるものの、日本語力、学力の面で入試は高いハードルとなっている。そこで平成 28 年度は「高校進学のための学力アップ教室」を企画している。年度前期に指導者研修、後期に教科別教室を開催する予定である。

【事業者紹介】

外国から来た子どもたちに日本語や教科支援を行って 21 年になる。生徒は、小学生 13 名、中学生 30 名、高校生 3 名の計 46 名である。スタッフは 41 名在籍している（平成 28 年年 1 月現在）。

常盤平と松戸駅近くで 5 クラスを開いている。

《問合せ先》 認定 NPO 法人 外国人の子どものための勉強会
 松戸市新松戸 7-517
 電話・FAX 047-345-2051
 Eメール gaikokukodomo@msn.com
 ホームページ <http://gaikokukodomo.wordpress.com>

<p>知っておくと安心！ 食品の安全な取り扱い手帳を 市民に手渡ししたい ～講演会の実施会場等で～事業</p>	<p>団体名</p>	<p>食の安全安心を考える市民の会</p>
--	------------	------------------------------

【事業内容】

平成 27 年度事業の取り組み

- 1 生産者から販売者まで安全を保障しバトンタッチされてきた食品を、消費者も上手に受け取り取り、表示を守って扱う必要がある。
- 2 数字には表れることが少ないが家庭でも食中毒は起きている。
- 3 作成した手帳を若い子育て中の家庭、男性たちにも手渡ししたい。
- 4 市民手作りは、全国初となるはずである。

事業費	134,745円
自己資金	34,745円
助成金	100,000円

<事業概要>

平成 27 年 10 月 23 日(金)松戸市女性センター 講演会&グループワーク 参加者 44 名(内男性 8 名)
『みんなで考えよ～食の安全 私たちにできること』

講師 日和佐信子さん(横浜市消費者協会理事長・元雪印メグミルク社外取締役)

平成 28 年 2 月 23 日(火)市民会館調理室 参加者 25 名(内男性 3 名外国の方 1 名)

料理講座&手帳の配布と食の安全啓蒙 『ふっくら肉まんを作りませんか』

講師 宋 如芳さん まつど国際文化大使・高齢者協力相談員福祉フェアで肉まんを指導している。



日和佐氏講演



ワークショップ



クローズアップ現代出演

平成 27 年度事業の成果

1 チラシ 1000 枚配布。手帳 190 冊は講演会・その他で渡し済。

2 問い合わせの効果・・・広がり

クローズアップ現代に出演(平成 27 年 11 月 30 日)

松戸市内高校の家庭科の先生

相模女子大学 栄養科学部 管理栄養学科教授(松戸在住)

広報まつどに掲載される(平成 28 年 3 月 1 日号)問合せ 35 件

3 講演会&グループワーク

男性の参加がうれしかった。(参加者 44 名内男性 8 名)

ADI(一日摂取許容量)の説明。参加者から毒性試験はどのように行っているか質問があった。

「食品を購入する時どのようなことに注意を払っていますか」

添加物 6 人・放射能 1 名・農薬 1 名・国産 3 名・加工食品の表示 4 名・家庭菜園も注意 1 名

4 料理講座は、20 名募集の所 25 名の参加者があった。



肉まん講座

【事業者紹介】

千葉大学園芸学部公開講座を受講した仲間たちで立ち上げた。学んだことを市民の皆さんにも知ってもらいたいとの思いから、食品の安全な取り扱いについて手帳を、平成 26 年度松戸市市民活動助成事業を受け出版した。平成 27 年度は、完成した手帳を市民の皆さんに手渡し活動(講演会・料理教室)を実施した。法律は逐次変わるため、第 2 版も検討中。

市民の皆さんの入会をお待ちしています。

《問合せ先》 食の安全安心を考える市民の会

〒271-8510 松戸市松戸 648 千葉大学園芸学部 C 棟 409

代表 石田貴士 千葉大学園芸学部助教

事務局 古宮保子 090-9963-8980

Eメール meri-meri@kit.hi-ho.ne.jp

団塊シニア世代の 地域デビュー事業	団体名	認定 NPO 法人 たすけあいの会 ふれあいネットまつど
------------------------------	-----	---

【事業内容】

平成 27 年度事業の取り組み

事業費	702,534円
自己資金	402,534円
助成金	300,000円

<取り組みもうとする松戸市のテーマ（課題）>

- 1 団塊・シニア世代が地域社会活動に参画すると期待されてきたが、ようやく環境が整ってきた。特に、800万人もの団塊世代の多くが加わり、地域コミュニティの創造に参加することになれば、市民主体の地域社会活性化は相当に進むことになる。
- 2 団塊・シニア世代の60%程度が地域社会の活動への参加を希望しているが、実際には少数しか参加していない。この要因は地域のNPO・市民団体・ボランティア団体の活動が魅力的に見えず、また具体的な働きかけが少ないことも一因と言える。
- 3 本事業は、団塊・シニア世代と地域のNPO・市民団体・ボランティア団体と結び、かつ、それに飽き足らない団塊・シニア世代の起業を促すものである。

<事業の目的>

- 1 団塊世代を中心にしたシニア世代に、地域社会のNPO・ボランティア活動・市民活動・市民事業への参加・起業を促し、市民・NPO主体の地域コミュニティの創造に寄与する。
- 2 この事業を通じて、地域ネットワークの核をつくり、今後のコミュニティ創造、ひいては、官民に伍する市民セクターの形成に寄与する。



平成 27 年度事業の成果

	内容	会場	参加者数
4月18日（土）	基調講演会「地域はあなたを待っている-団塊・シニア世代に期待する 講師：堀田力氏	流通経済大学 新松戸キャンパス	130名
6月14日（日） 6月20日（土） 6月21日（日）	地域デビューセミナー（研修会）「地域はあなたを待っている！・・・『地域デビュー』のススメ。	松戸市女性センター ゆうまつど	延べ70名が参加
7月	実地体験活動 受入団体4団体		25名

【事業者紹介】

困ったときはお互いさまの精神のたすけあい活動
（自家用車を使った移動サービス、病院付添・家事援助などと言ったインフォーマルなサービスの実施）
支え合い助け合いのある地域社会作り活動

（ふれあいの居場所「みんなんち」事業、移動ボランティア養成研修、東日本大震災復興支援活動）

《問合せ先》 認定NPO法人たすけあいの会ふれあいネットまつど

松戸市東平賀7-2

電話：047-346-2052

FAX：047-346-0088

Eメール：fnm2011@r4.dion.ne.jp

ホームページ：http://fnm2011.okoshi-yasu.com/

担当者：佐久間浩子

* 協働のまちづくり基金 *

平成27年度は 市民活動助成事業

8事業 を応援しました!!

【スタート助成】 河原塚史 編纂事業 P. 3	【スタート助成】 「カレーを食べる会」 事業 P. 4	【スタート助成】 伝えたい大震災の記憶・学びたい大震災の体験の講演会・ワークショップ事業 Part2 P. 5	【スタート助成】 認知症の啓発活動と患者・家族の支援体制づくり事業 P. 6
【スタート助成】 けん玉で遊ぼう 事業Ⅱ P. 7	【スタート助成】 外国人の子ども支援を考える事業 P. 8	【スタート助成】 知っておくと安心！食品の安全な取り扱い手帳を市民に手渡ししたい～講演会の実施等で～事業 P. 9	【ステップアップ助成】 団塊シニア世代の地域デビュー事業 P. 10

【 協働のまちづくり基金とは 】

市民、市民活動団体、事業者の皆様から寄せられた寄附金及びその同額を市費で積み立てるマッチングギフト方式を取り入れた基金です。この基金がまちを明るく元気にする「市民活動助成制度」の原資となっています。

市では、皆様からの寄附金のほか、チャリティー自動販売機の設置を通じて基金を育成しています。市民の皆様のご協力をよろしくお願いします。

HP 松戸市トップページ ▶ くらし ▶ 市民活動 ▶ 協働のまちづくり（市民活動の活性化と協働の推進） ▶ 協働のまちづくり基金

http://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/shiminkatsudou/kyoudou_machidukuri/kikin/index.html

平成 27 年度 協働のまちづくり基金 寄附者一覧 (敬称略)

ご寄附頂きました皆様にお礼申し上げます。

★第 12 回 NPO・市民活動見本市実行委員会

★東京キリンビバレッジ株式会社 柏営業所

★エースター株式会社

★株式会社 八洋 柏営業所

★洗濯屋あべ

★コカ・コーリーストジャパン株式会社

★東京東信用金庫

※公開希望のみ掲載

(申込受付順)



平成28年5月

発行

松戸市 市民部 市民自治課

〒271-8588 松戸市根本387-5

TEL 047-366-7062

FAX 047-704-4009

E-mail mshiminjichi@city.matsudo.chiba.jp